

拝啓 今年も早や6月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。近所の公園では、大きなねむの木に薄紅の花が咲いていましたが、もうそろそろ終わりになりました。コロナ・ウイルスの蔓延が、日本では奇跡的なほど少ない数の感染者数となっていますが、これからも気は許さない方がよいと思います。

今回は佐生健光さんの『キリスト教と称名』の第4回です。

エンカウンターは、ウェブサイトに掲載しておりますが、そのアドレスが、今月から変わりました。その経緯を記します。

従来のアドレス <http://encounter.agape.gr.jp/>

新しいアドレス <http://agape.wjg.jp/encounter/>

エンカウンターは、現在は24名の方の郵便でお送りしていますが、ウェブサイト（パソコンの画面）でも見ることはできます。ウェブサイトを管理して頂いているのは兵庫県加古川市にお住いの船倉昌之さんです。船倉さんは、米倉安雄さんの会社勤務時代の友人で、パソコンに強く、米倉さんと一緒にアガペーというウェブサイトを管理しておられます。

10年ほど前、それまで郵送だけでお送りしていたエンカウンターを、米倉さんからウェブサイトに掲載するようお勧めがあり、共同管理人になっていただく条件で、郵便で送るとともに、米倉・船倉さん管理のウェブサイトにも掲載するようになりました。その機会に、バックナンバーも全部掲載しておけば検索が簡単にできると考え、バックナンバーも全部掲載してもらいました。そのウェブサイトには、幾つかの教会の共励会などのグループも参加されていましたが、そちらがこの度利用を中止されたので、アドレスを変更されたそうです。

エンカウンターを始めたきっかけは、19年ほど前、佐倉市在住の佐藤れんさんから、なにかのお祝いに金一封を頂いた際、パソコンを買いました。パソコンを買って、何に使おうと考え、とりあえず、当時アメリカから来られていた宣教師ルツ・エルマー先生がアメリカへ帰国された際、私たちに下さった20ページほどの小冊子に素晴らしいキリストの文章が詰まっていたので、それを3-4回に分けて写し、佐藤れんさんなど数名の方に送ることからスタートしました。

始めの数か月は無題でしたが、ある時南原繁先生の講演「歴史はだれがつくるか」（著作集第10巻57ページ）を読んでいましたら、「よい書物を見出すこと、よい少数の友人を作るといふこと、これは人生における一つの「出会い」であります」とあり、その「出会い」という字にエンカウンターというルビがふってありました。これはよい言葉だと思い、エンカウンターという題に致しました。

エルマー先生の文章の次は、小西先生の「主の御名を呼ぶ」、ビリー・グラハム先生の「きょうのみことば」からの引用で始めました。私は、1980年（昭和55年）にビリー・グラハム先生が後樂園球場で、クルーセードをされたとき、大変感銘を受け、後でビリー・グラハム先生の本はないかと思い探したところ、『きょうのみことば』（いのちのことば社）

を見つけ、読み、感銘を受けました。その時、日めくりの霊想の書には、著者の信仰のエッセンスが詰まっているということを見出し、次々にそのような霊想の書を読みました。内村鑑三先生、新渡戸稲造先生、南原繁先生、矢内原忠雄先生、スポルジョン先生、カウマン先生、神谷美恵子先生（神谷先生は、著作集から）、金田福一先生、バジリア・シュリンク先生、バークレイ先生、ヒルティ先生などの日めくりの霊想の書を読んで感銘を受けていましたので、これらの先生の霊想の書を紹介しようと思い立ち、次々に紹介してきました。最初の頃は、1冊の本を半年6回程度で紹介していましたが、最近は、一年12回程度で紹介することにしています。これまでに取り上げた本のリストを同封いたします。

ウェブサイトですから、世界中、どこでもいつでも、パソコンさえあれば見ることができます。バックナンバーも見ることができます。

上に記しました、ヒルティ先生の後には、相沢良一先生、モーク先生、石館守三先生など、日めくりの霊想の書ではない本の紹介もすることにして、現在の佐生健光さんの紹介に至っています。合計約20人の著者の霊想の書のエッセンスを紹介しました。今回が219号ですから、一回10頁として、約2200ページ、2200項目の基督教信仰のエッセンスが詰まったウェブサイトということになります。キリスト教で聖霊を受けるためにはどうすればよいかということに引用の中心があったように思います。

現在でも、毎朝必ず読む日めくりの霊想の書は、小西先生の『主の御名を呼ぶ』、新渡戸稲造先生の『一日一言』、松下幸之助先生の『道をひらく』、内村鑑三先生の『一日一生』、バークレイ先生の『希望と信頼に生きる——ウィリアム・バークレーの一日一章』です。私の座右の書ということになります。

エンカウンターのはじめは、佐藤れんさんからのパソコンのプレゼント、ウェブサイトに掲載、継続させて頂いているのは米倉安雄さんからのプレゼント、お二人に心から感謝をささげ、これからも大切にしたいと思います。

エンハウターのウェブサイトのアドレスが変更になった機会に、エンハウターの経緯などについて記しました。

新型コロナの影響で予定が遅れていますが、小西先生の伝記『小西芳之助の生涯——恵心流キリスト教の牧師』（教文館から出版予定）の再校を先日済ませ、8月中には出版してもらえそうです。

皆様も、新型コロナに感染されないように、注意をされまして、お元気で、毎日お過ごしくださいますように。

6月25日

山口周三

エンハウターの読者各位